

第1回 有田町総合計画審議会（会議概要）

日 時：平成28年9月13日（火）15：00～17：00

場 所：有田町役場第4・5会議室

出席者：【委員14名】岩崎数馬、岩永喜代次、原田一宏、久保田均、今泉正子、川内文昭、川尻敦子、岩谷綾子、松尾廣志、松尾利興、山口睦、久家郁子、王寺直子、徳永純宏

【事務局3名】木寺寿、川久保哲、志賀修

【欠席8名】深川祐次、岩永康則、庄山嘉、樋渡毅彦、岩永節美、山口修、富吉賢太郎、小坂智子 ※敬称略

1. 開 会

2. 町長挨拶

山口町長：総合計画に関しましては、10年間で、それを前期と後期に分けて5年で見直しをしながら、実行していくという計画であります。ただ、総合計画というこれからのまちづくり10年後、20年後を見据えたまちづくりのための、町民の皆さんのいろんなご意見や各種団体、自分たちのそれぞれの夢に向かって計画を立てていく、そして行政もそれに沿って行政サービスがどうできるかという行政の指針にもなるものです。このことをもって、次の10年が決まると、青年会議所の理事長さんはじめ皆さんとお話しをしていたのですが、将来に対する思い、自分たちの夢、そういうものがこの計画の中に入っていく、そして、それをしっかりとサポートできる、町民の皆さんと行政が、それを取り巻く関係者の皆さんの共同作業が始まる、そういう意味での計画でもあります。ただ、これはまちづくり等々が中心になってくると思いますが、このほかにも、教育に関しては教育大綱を含めた教育の指針がありますし、また、障害者の方々には長期的な障害者プラン、医療、福祉、それぞれにあるのですが、そのことも多少は入っていくのですが、ただ、まちづくりの長期総合計画ということで、これからお示しすると思いますが、一定のプランによって策定していくと、そしてこれが、29年度で一旦第1次の計画が終了しますので、第2次、第2ステージに移っていくということでもあります。今までも問題や課題がありました。道路整備やハード、ソフトですが、その問題に関しましては、一応ここ1、2年で道筋だけはつけさせていただきます。具体的には、ここ3、4年くらいで全部完了したいという思いはありますが、そういうことも踏まえて次の10年度の有田の姿、有田町民の皆さん、そして経済、そういうところもしっかりと見据えて皆さんの意見が大きな

柱になればと思いますので、ぜひよろしくお願ひ申し上げる次第でございます。

3. 委嘱状交付

(町長から代表して原田委員に交付)

(町長退席)

4. 委員紹介

(資料1により紹介、各委員挨拶)

5. 有田町総合計画審議会について

志賀：(資料2により説明)

6. 議 事

(1) 会長・副会長の選出について

木寺：この審議会の会長副会長の選出につきましては、先ほど条例の中でご説明しましたとおり、審議会での互選となっておりますので、皆様方の中で立候補などありましたら、お申し出ください。

(立候補、推薦なし)

木寺：それでは、事務局案として提示させていただきます。本審議会の会長に、公募委員であります岩崎数馬委員、副会長に総区長会会長の岩永喜代次委員を推薦させていただきます。ご承認いただけましたら拍手をもって承認とさせていただきます。

(一同拍手)

岩崎：自己紹介のときに簡単に紹介しましたが、公募委員ということで手を挙げて、この場にきたらこんな指名を受けまして、戸惑っておりますが、先ほど町長からもありましたが、これはこれからのこの町の未来、長期にわたった町の指針を示していくと、それぞれ皆さん方、各団体の代表としてお見えですが、忌憚の無いところで意見を出していただいて、スムーズに建設的に会が進んでいくことを望んでいるところです。私は5年前に旧西有田地区の大山郵便局の局長を勤めておりまして、退職をして1年間だけ伊万里のほうのまちづくり関係のNPOのほうに勤めたことがあります。その後はいろいろな町のボランティアなどで、自分なりにやってきま

した。67年間、生まれも育ちもこの町ということで本当にこの町を愛しています。だから、そういった意味で自分の足跡として何か町の役に立てばなということ、いろいろなところで手を挙げさせていただいて、今回もそれになったということで、皆さん方にはお世話になると思いますが、よろしくお願いします。

岩永（喜）：総区長会の代表ということで、8区の総区長をしております。400年の行事に加えていろいろな行事で忙しくしております。一昨日は運動会、黒い上に天気が良かったものでまた真っ黒になりました。もうしばらくすると敬老会、皿山まつりと大きな行事がありますので。またこの総合計画審議会の中でもいろいろ私なりに勉強してやっていきたいと思っております。よろしくお願いします。

（2）有田町総合戦略及び住民満足度アンケート調査結果について

川久保：（資料3により説明）

川内：回収率が30%ともものすごく悪いのですが、その結果がこれなのに、方向性が出るのかなと思います。もうちょっと回収率が50%とかあれば、町民の声が反映したアンケートになると思いますが、30%しかないのに、方向性が正解なのかなと心配になります。

木寺：ご指摘はごもっともだと思います。今回、総合戦略を検証していくうえでの住民満足度を総合計画策定と併せて取らせていただいたのですが、再度の回収の呼びかけを行ったうえでの数字がこの数字となっております。これは現状として、町民の方の意識も含めて、これが現状だと認識をせざるを得ないと思います。この満足度調査というものは、今後定期的に行っていく必要があります、当然、今回の29.6%という回収率を、今後いかに高めていくかということが、まちづくりの姿勢となって現れてくるのだらうと思っておりますので、ここは、この29.6という数字は真摯に受け止めさせていただいて、今後につなげて行きたいと思っております。

川内：私も当たったのですが、ちょっと内容が難しすぎるというか、書きづらいというものがあって、例えば選択式をもっと増やすとか、○×で終わればもっと出してくれるかも分からないのですが、具体的な意見を書くとなると、なかなかそこに時間がかかって書かないでおこうというふうになるわけです。できればそういう選択方式のほうがとりやすかったのではないかなと思います。

木寺：回答しやすいアンケートの内容と検討する必要があると思います。

今泉：これから先も調査をされるということですが、どれくらいの頻度でできますか。

木寺：できれば毎年の調査がよいかと思っております。ただ、2年おきという線も考えてはいるのですが、町内に転入されてこられたかたと、転出されたかたにアンケートを取っているのですが、こちらの調査も併せて定期的に行っていこうと思っております。

今泉：そうしましたら今回の総合計画に反映されるのはこの調査ということになります

か。

木寺：そうです。

木寺：説明の中で、他の地域や市町村へ移りたい理由を説明しましたが、他の地域というのは町内の別の地域へというご意見も含まれております。買物に対して不便だからという、町内別地域への移動を要望されるようなご意見も、町外転出に限ったことではないです。

久家：町内別地域に移りたいかたと、他市町村に移りたいかたは、意味が大きく変わるとは思います。移りたい方の中でも割合として、町内は何パーセントいらっしゃるって、他市町村へ移りたいかたが何パーセントいらっしゃるというのは、内容がちょっと違うのかなと思います。

川久保：資料の12ページですが、下のほうにグラフがありまして町内別地域に移りたいというのは3.7%で他の市町村に移りたいというかたが7.1%です。

木寺：年齢別で申し上げますと、29歳以下の方が7.1%と一番大きい数字になっています。小学校区で言えば、有田小学校区8.7%です。

久家：データとしては上有田のかたの理由がどこにあるというのは分かりますか。そのあたりが分かれば上有田地区の問題点が分かるでしょうし。

岩崎：今日が1回目で委嘱状が交付になってから委員ということでしょうから、前もって資料が配布になっていればよかったですのですが、次回から、お願いしたいと思います。

川内：今日のラジオを聴いていたら、福岡が（人口で）広島を抜いて、西日本の一番の大都市であって、福岡県には福岡市と北九州市と政令制定都市が2つあるわけで、2百万人を超しているわけよね。それに比べていたら佐賀県は、80万人ということで、そこらへんを定住させるには県全体でそういう人間の定住者の誘致とかを考えてもらわないといけないのだけれど、商業は福岡に任せるとか、山口知事もそういう言い方をされているわけで、農産業とかに今後の方針を持っていくということもあるのだけれど、それを含めて、有田町に商工業というのは少ないですよ。窯業を除けばほとんど無いわけです。そういうものの誘致事業とかを基本的にやっていかないと、流出は止まらないと思います。一番の問題は賃金が安いということで、この辺に済んでもなかなか満足いく生活はできないですね。ただ、家が持ち家でただなので何とか生活できるということです。アパートなどを借りても福岡などのアパートと値段がほとんど変わらないですよ。それから言うと、賃金や収入を上げざるを得ないと。そういう施策を町として持ってほしいなと思います。

原田：議会でもそのような話はでていますが、働く場があれば若者は定着するだろうし、無ければ町外に出て行くということで、そこを見据えた政策をとらないといけません。

原田：話は変わりますが、他の地域や町外に移りたいという2番目の理由に近所づきあ

いや地域づきあいがわるいやわずらわしいとあるのですが、ずっとそれできた人は慣れているのですが、若い人にすればなぜこういうものがあるのだろうかとか、不思議に思われることもあると思います。そこらへんは地元の地区単位でいろいろ話をしていかないと分らないということもあるでしょうし。地区のレクレーションを企画しようとしたら、なぜそんなことをしないといけないのかという若い方もいらしたということで、親睦を深めるためですよと説明して何とか来てもらいましたが、わずらわしくて、出ないほうがよいといった意見も実際あるようです。総区長さんに各区長におろして行って、そういう人たちが出やすいということ、各地区で話をしないといけないのではと思います。

岩永（喜）：区長会を出しても良いのですが、これがわずらわしいとかいうのが、どういったことで、どういったものかがはっきりしませんよね。確かに行事は多いですもんね。役員をしていたら大変ですもんね。どこら辺を改善していけばよいものかですね、区長会の中でも話を出してもいいですね。

岩崎：要するにコミュニティのあり方とか価値観の違いですもんね。世代間では当然違うし、集落ごとにも慣習とかが違ってくるので、そこにいきなり飛び込んできたときについていけないということが出てくると思います。田舎町としての良い伝統もいっぱいあり、それを守りながらコミュニティを作っていくというものです。

木寺：移住支援ということで申し上げれば、全く別の町から町内の地域にいけるよとしたときに、お試しで来ていただいて、その地域のことを知ってもらわないといけないので、丁寧に説明をして入ってこられるかたについては、そういった体制を組んだりするケースがあります。行政区の各集落にまったく別のところからこられた時に集落としてその方たちを向かい入れる体制というものも考えないといけないのかなというところは、前と時代も変わってきているので。

岩崎：確かにこう中身を知らないまま入ってきて、そんなに区費が高いのかとかですね。

久家：私たちの世代の意見では、結婚して子どもがいらっしゃるかたはいいのですが、子どもたちの事業があるので、それで入っていけるのですが、私みたいに結婚してなくて子どももいなくて、親もいるとなれば区の行事に参加するチャンスが無いのですよね。行けば顔見知りのかたもいらっしゃるので、行けばいいだけの話でしょうが、子どもがいなくて行きづらいとか、周りの人たちの話を聞いていると、子どもがいるから参加するという人たちがばかりなのですよね。そうすると、結婚していない、ある程度の年齢の人たちからすると、完全にコミュニティの外にいるということがあるので、そこをどう取り込んでいくか、そういう人たちがどうしていいかわからず、でも何かしたなということで、区とは関係ないまちのイベントを自分たちで作ったりかかれているのかなと、なかなか中に入っていない私からすると、私達世代の意見としてはあるのかなと思います。これから先、結婚する可能性はどんどんどんどん低くなっていくので、私たちの世代より40過ぎるくらいなと、

これから先かかわっていく可能性はどんどん減っていく、年を取ったとき、60くらいになったときに仕事も無くなったときにその人たちを中に入れていくかとかですね。結婚されている人たちとされて無い人たちのコミュニティが分かれるのではないかというのが、これから先20年30年後も出てくるのではないのかなと思います。

岩崎：世帯から代表で出られるイベントもあるでしょうけど、集落によっては全員が集合するイベントも中にはありますよね。

久家：有田地区はどうしてもそれが薄いのですよね。行かなきゃ行かなくてもいいですし。お祭りのときとかお参りには行くけどお参りだけですよね。何か力を出すとかということも無いので。それは子どもクラブのお父さんお母さんが中心にされているところに、子どもいないのにいくと、危ない人と思われてもあれですし。そういうのも無きにしも非ずなので。

岩崎：有田町の西有田町が合併して10年ですが、区になっていますよね。3つの集落で。有田町の3つの集落が動いているのか、それとも区として動いているのかですね。西有田町の場合は区というより集落ですもんね。区が同じ3集落でも習慣や取り決めがすべて違ってきますもんね。だから、うちは10区ですが、10区で動くということが、全く無いのですよ。それぞれの3集落で、それぞれのしきたり、ならわしでやっている。その辺が合併して一番の問題じゃないかなと思いますね。東地区でも両方あるのですが、実態として、総区が定着していたのですよね。それが実態として動いているのではないかなと思います。

岩崎：西地区はなかなかそこまで行かないですね。運動会も東地区は区対抗ですが、こちらは集落対抗ですものね。会計も全部別ですよ。

川内：先ほどの久家さんの意見についてですが、うちの商工会で去年からバレンタインイベントをやっておりまして、ずっと続けようかと思っているのですが、金がかかるのですよね。400年記念事業の中で去年はやったのですが、半分は自分で手出ししないといけないものだから、そのくらいハードルが高いもので、できれば続けるためには、町の中で婚活支援とかに予算を作ってもらってなにかやればそれののっかって協力はしたいのだけど。人口を増やすためにね。西山会長は今年もやろうという気ではいるのですが。なかなか資金面が難しくてですね、それをどうしようかなと、例えばMRの列車を借りて、婚活列車を走らせようとか話はしているのですが。それをどこに募集を持っていくか、できれば町内にグループがあつてそこらへんからきてくれれば簡単にできるのだろうけど、それを誰かに頼まないといけないものだから。あとあとのストーカーとかも問題があつてね。プライバシーの問題もあるものだから、いずれにしてもハードルが高いなという話を最近しています。極力そういう面では前向きにやっっていこうかなと思っています。

久家：私達青年会議所も私がもう少し若かった頃、久家を結婚させようというプロジェ

クトで婚活イベントをしたことはあるので、お気持ちは良く分かります。予算が無いというのは、大変ですが、私たちは予算より人手が足りないのでできないというところもあるので、続けることができないところです。

川内：うちの青年部も結構、既婚者も多いので、未婚者がいればしようというふうになるのですが、1回やったんですよね、ハウステンボスで。

木寺：広く住民の人の参加とか意見を吸い上げるようなお話もいただいておりますが、この後の策定の方針の中にもそういった取組をさせていただきたいと思っておりますので、次の説明をさせていただければ助かります。

(3) 「第2次有田町総合計画」策定について

志賀：(資料4により説明)

岩崎：説明があったように、基本方針から策定のスケジュールといった、まさに審議会として行動を起こしていくとになって行くと思っておりますが、質問がえられるかたはお願いします。

久保田：住民満足度調査の非常にデータがたくさんあるので、全部目を通しながら把握しなくてはと思うのですが、見方として、住民の不満足度、どの辺に不満を持っているかというのをぱっと見えるようなものがあれば考えやすいと思うので、ちょっとそういう見方で分かりやすいものを次回でも言っていただければと思いました。

木寺：一つは先ほど説明させていただきました、最終ページの51ページ、これは総合計画の各項目においた満足度と重要度をクロスさせた内容になっております。当然、不満か満足かというのは下の段の横列になっておりますので、左側に行くにしたがって満足度が低いという部分になってまいります。縦軸に重要度が入っておりますのでCの欄が重要度も満足度も低い内容になっています。Bの欄は重要度も満足度も高いということになってまいりますので、先ほど説明したとおり、Aの欄が最も重要度を望まれているけれども、満足度は低いという欄で、一番改善見直しが必要な領域がこのAの欄になってこようかと思っております。他の自治体と有田町が極端に違うのがAの分野に観光というものが入ってくるという特徴があります。伝建物を資源として持って、観光の推進ということでやってきている中で、その重要度がほかの市町よりはるかに高く認識されているけれども、満足度が低いというふうなところはほかの市町と傾向がずいぶん違う点だと思っております。それと、子育て、教育に関する満足度というものはおしなべて高い部類ではあるのですが、重要度もはるかに高いニーズを求められている分野です。移住定住相談を受けるなかでも、有田町は子育てをしやすい環境だというご意見をいただくこともあります。そうしたなかでも更に子育て支援の充実というところのニーズが高いということは、当然行政と

して今後支援していくべき分野として重要なのかと認識しているところです。

久保田：参考にいろいろと考えてみたいと思いますが、Cの欄で男女共同参画の推進というものがありますが、これは町民のかたはあまり重要ではないが、若干不満であるにとらえればいいわけですね。という、もう少し男女共同参画が進むような施策が必要であるにとらえればいいですか。

岩崎：男女共同参画に関しては別にアンケートをとったばかりですが、その辺の傾向はどうでしたか。

木寺：そこはまだ集計中です。ただ、全体の傾向として捉えて、ある部分によっては最初にご指摘があったように、30%という回収率ということも踏まえた上で、すべてCの欄にあるから重要度が低いと判断できるものばかりではない部分は当然あると思います。そこは総合的に加味しないといけないと思いますが、傾向としては、ここに表れているCの欄でいけば、今おっしゃったような傾向があるのだろうと思います。

松尾（利）：今のよう形で31ページも同じような形で、この満足度をこれだけ集計するのも大変だったと思います。先ほどの有田への移住、特に若手の人たちに入ってきてもらいたいということを考えますと、左上のAがごそっとBに移れば、若者がどっと増えるということなのかなと、簡単にはいかないでしょうが。32ページから34ページにかけて、自由記述という形でいろいろ書いてあるようですが、ひとつひとつなるほどなあと、確かにこういう大変なことがあるのだろうなということで、読ませていただきました。やはり、ここに一つの問題提起といいますか、若者がどうにかしてもらいたいという気持ちとか、若い人に有田に来てもらいたいという一つの対応策として、頻度が増えているものもあるのかなと見せてもらったところです。ありがとうございました。

王寺：この審議委員会は、策定体制のなかで基本原案を諮問する機関なわけですよね。ここで、策定の骨子をだいたいアンケートを元に作るということなんでしょうか。皆さんがいろいろ意見を出されているのは、住民委員の中でそういう意見をどんどん出てくるわけですよね。この会議の意図が見えません。この審議会は何をすべきところで、何を審議するべきかということをもっと最初に言わないと会議の内容がよく見えないのですが。

岩崎：資料4の5ページに策定体制がありますよね。

王寺：審議会というものがあって、諮問委員会。

岩崎：町長からの諮問を受けて答申をします。

木寺：今日の審議会は今後の総合計画を策定していくための方針をお話させていただいて、住民委員会で検討したもので、構想を練っていくと。町長から審議会への諮問というものがありますが、これは構想の案を住民委員さんに検討していただいたものを、町のほうにいただいて、そこで、たたき上げまして構想の案ということでこ

の審議会に諮問をさせていただきます。この構想の案についてのご審議をまずいただくというのが3月の予定となります。

王寺：今日は何をするのですか。

木寺：今日は全体的な説明とこういった体制で今後すすめさせていただきますということです。

川内：次回からは、案を作ったものを我々が審議するということです。

徳永：私もマスタープランとかそういった問題があって、個別に入ってくるかなと思っていたのですが、昨日も建設課に行きましたら、有田町には都市計画図があるけれど、西有田には都市計画ができていないのですよね。前はマスタープランができていましたよね。そういった大きな町の構想を描いていきますよと、その中で細部に入っているものですから、大枠なかで教育の問題とか個別に入っていくというふうに思うのですが、今のところ聞いていますと、前座ということですね。

木寺：第1次計画でもそうだったのですが、実際の審議会の審議は諮問をさせていただいて答申をするまでの間の作業になって来ようかと思えます。ただ、今回は住民委員会2018という無作為抽出による、団体の代表でもなければ、一般の子育てをされているお母さんかも分かりません。そういった方々に住民委員として参加をいただいて、100人規模で将来像の構想について意見交換をしていきたいと思います。もちろんその時点で、細部にわたる計画にわたる、事業にわたるような内容も意見として出てくると思えます。その辺をファシリテーターのかたにうまく誘導していただきながら、構想のたたき台をこの住民委員会で作り上げてそれを町の方が、提案いただいたうえで、町の中で揉んで、それで構想案として審議会に諮りたいと思えます。実際は3月の諮問になりますが、住民委員会が11月から動き出しますので、その途中経過を含めて1月に再度もう一回審議会を挟ませていただきたいと思えます。住民委員会で進んでいる計画をご紹介させていただきながら、3月の諮問、審議というところをお願いできればと考えています。

岩崎：要するにスタートラインは3月で、その前座が今日も含めてあるということですね。

今泉：その説明で行きますと、結局、私たちが集まっている審議会というよりも、一番重要になってくるのは、今回のアンケートと住民委員会のかたの意見が基本になると思うのですが、例えば、このアンケートにしても3割以下しか回答が得られなかったというのに、同じ方法で、呼びかけたところで集まりますか、この人数が。

木寺：集めたいと思えます。

今泉：ですから問題は、このアンケート調査をいただいて確かに回答したと思うのですが、こんなに重要なアンケートとは知りませんでした。そういうふうに住民への周知が足りないのではないかなと思います。町のやり方として。これは大変重要な委員会になると思うのです。だから、無作為はもちろんですが、各年代から確実に集

めるということがないと、建設的な意見が出てこないと思うのです。それと、これを1,000人から1,200人に呼びかけるということですが、100名の人を選んで、住民委員会が4回続けてありますが、同じメンバーでされるのですか。

木寺：そうです。

今泉：周知が大変重要になってくるのではないかと思います。

岩谷：住民委員会は10月に選出して、11月から4回あるわけですが、20人が5部会に、1回につき100人を一辺に集まっていたということですね。

志賀：集まっていたのは同じかたです。

岩谷：やはり抽出型というのは、意見を出されないと確立しないわけなので、無作為というよりは、完全にほぼ来てくれるかたとか意見を完全に出してくれるかた、要はワールドカフェ方式というのはファシリテーターの方がいらっしやって、テーマを出されて、私たちが確実に何かしらのコメントを書いていきなり、言っていくなりして、それを集約してどうやったという構想をあてはめて、こういうのができましたよというのがワールドカフェですね。なので、そうすると、確実に誰が参加できる、例えば青年会議所の方たちとか、PTAとかで呼びかけて、団体の人たち、本当に有田町のことを考えて意見を出されるかたに呼びかけたほうが、なお、一層良い構想ができるのではないかなと思います。団体で組織に入っているからこそ、見えるものがたくさんあるかと思うので、もう少しアバウトではなくて完全に当てはめられるような感じのワールドカフェという形でされたほうが、私はいいかと思います。結局このなかに私たちが入れるのかどうかということですよ。無作為にされると入れるような形には見えないので、ここの審議に出てきたときには、私たちも参加、入れるときに参加という形で意見を練って、諮問だとか上のほうに上げていくような最終手段に持っていくような流れを作られたほうがより一層よくなるのではないかなと思います。

木寺：ありがとうございます。前座ということだったのですが、こういったお話をしたいいただくのが今日の審議会だと思っております。先ほどおっしゃるように、抽出に当たっては無作為とはいえ、年代別、男女別といった条件を付しながらの無作為抽出になってくると思います。先ほど説明で、抽出と公募を両輪でまわしていくということを想定しているというのは、100名抽出による希望者を募ったときに、集めるのがなかなか厳しいという判断をしております。そうなったときに、公募と両建てていかないと、100人は集めきれないだろうということです。ただ、一つはこれまでこういった場になかなか出る機会も無い、出てこられない方々のご意見を少しでも住民委員会という形の中で拾って、町への関わりを持っていただいて、今後のいろんな活動に繋げていければということが、一つの狙いとして持っております。ですから、すべて今活動されている団体のかたを中心ということとは、そこも加味しながらの公募というところの両だてで行くということにしております。ご意

見いただいたように、この住民満足度調査のAの欄にあがっている重要度が高く、住民満足度が低いという、こういった項目の中には、先ほど今泉委員さんからもご指摘いただいたように、町としての周知を確実に行っていけば、ここの領域にはこない分野もたぶんにあるのだらうと思います。周知不足のために、ここにあげてきたという、行政として反省すべき点も、このアンケートに表れていると思いますので、行政がやっていくことの周知というのがいかに大切かということは、今回のアンケートで、保育料でいえば、県内で2番目に安い、有田町の取組が十分認識されていない、住民のかたには伝わっていないとかですな、いろいろな取組をしているけれども、そこは分かっていたけていないというのは、周知が足りないからだという反省は十分持っております。そういうふうな目でこのクロスの分析は、私たちは踏まえて、今後検討していかないといけないなと考えているところです。

川内：子育てに関して、町に子育て支援センターというものはないわけでしょ。よその市町村はあって、なんで有田に無いのかなという疑問と、今やってもらっているれんげ広場とかボランティアでやっていて、人間が集まるから行政はいいという考えがあるのかなと思って、こういうのが出ているのではないかと思います。実際行った人はこういうのがあるとね、そしたら次回から来ますよという声を聞くわけですよ。言われるように、PR不足だし、まず、子育て支援センターという骨格を作ってから取組みれば、一発でなくなると思うのですよね。そういうことも、今まで言っただけだけれど、なかなか形にならなかったのかなと思います。そういうことも踏まえて、計画作ってもらえばありがたいと思います。

久家：住民委員会の件ですが、4年ほどまえ唐津のほうで400人のワールドカフェを行ったのですが、県内中から集めるということで、佐賀大学生とかいろんなところにかけてあって、佐賀大学からも100人規模で来てもらったりとか、県内中にテレビ、ラジオ、新聞、SNSを使って募集したのですが、それでも400人集まりませんでした。350人くらいだったのです。JCのメンバーも入ってです。かなり、公募と簡単におっしゃいましたが、公募もかなり厳しいと思います。なので、こういうワールドカフェに興味を持っている方々に届けるためには、SNS使ったりとかいろんな方法を本気で取組まないと、公募のほうに難しいと思います。団体からいけばいいとかいう問題でもなく、いろんな意見を言う場所が無い方々のための場であるのは、本当に素晴らしいことだと思うのですが、人を集めるのはすごく大変なことなので、お金を払えば来てくれるとかではなく、本当に町のことを考えたいなと思っているかたが、どう意見を言える場を作るかということに対してもうちょっと、心をみんなで砕いていってどうしたらいろいろなかたに参加していただけるかというところを、建設的に話ができたらなと思います。

岩永（喜）：住民委員会はどこで選定、町でするわけですよね。区でもある程度選定して、出すような形は取られませんか。いろいろ町のこととか、区のこととか、住民

のことを考えている人たちをですよ、ぜひ出したいなと思います。

久家：前回ありましたよね。区長さんから言われて、行った会議が校区単位でありましたよね。

岩永（喜）：何名かは区の選出ということですね。

木寺：検討させていただきます。

岩永（喜）：最終的にはこれ（総合計画）を作り直すということでしょう。5カ年計画と10カ年計画を。

岩崎：住民委員会の件ですが、資料では話し合いの参加者は無作為抽出で1,000人から1,200人。会議では20人の5部会となっていますが、これは別の話ですか。

木寺：同じものです。

志賀：1,000人のかたに参加の依頼書を送るわけです。そのなかで承諾をいただいたかたに出ていただくもので、100人集める方法が違うだけであって、直接公募をするものか、お便りでお知らせするものか、各団体をお願いするとか、いろいろな方法はとらせてもらい、どうにかこうにか100人で行いたいという考えです。

岩谷：同じメンバーが希望でしょう。この4カ月間。難しいよね。

岩崎：岩永副会長が言われたように、集落からというのもいくらか枠の中に入れていてはどうですか。100人のうちの30人とか。

岩谷：4カ月間の中で月一回ずつというのも、大変なのよね、正直。人を集めるというのはすごく難題で、しかも100を頑張りましょうとなると、本当に来て親身に来てくださるかとか、本当の協力者を得ないとなかなか難しいのではないかと。単なるかき集めをするとき、次回来なくてもいいからみたいな形になっちゃうのですよね。PTAなんかやっていると。そういうことではなくて、パシッと4回来てもらおうような形になると、かなり労力があるし、とういうところで。

木寺：月1回の4回を想定していますが、この東さんにファシリテーターをお願いするなかで、この1回目のスタートが大切だと思うのですよね。この4回のうちの1回目にどういうことをして、どういった4回にしていくのかという周知もしないといけないし、1回目にこられたかたに次回もまた来たいねと思ってもらえる1回目で終わらないと、4回は続けられないと思いますので、その前準備を入念にする必要があると思っています。

岩崎：要するに楽しかったねと帰ってもらおうとですね。

岩谷：ワールドカフェというのは座談会という意味合いですので、そこで1回目を座談会のなかで楽しく意見交換しながら、忌憚なく、お菓子やお茶などぎっくばらんに食べながら飲みながらということで意見を吸い上げて、4回をどう切り抜けていくかというのが1番のテーマじゃないかなと思います。

久家：ワールドカフェ4回ですか。ワールドカフェして次はオープンスペーステクノロ

ジーしてみたいな感じで、その話を積み上げていくとか、大きくするとか集約するとかまとめていくとか、現実化して落とし込んでいくとかいう手法は使われるのですか。ワールドカフェだけですか。

木寺：ファシリテーターのかたと打合せをしているところです。

久家：そこまでしないと、広がるだけ広がって集約する落としどころがなくて、O S T みたいなことをしないと現実的なことにならないのかなと思います。

岩谷：4回目というのは3回やったなかの意見の集約を、こういうふうな意見がありましたと、構築されたものバチッと出さないと、参加しただけで一体どうなったのと、そこかなと思います。

王寺：私は前回の住民委員だったのですが、それは町から推薦で4回出ました。大体いつも会議に出るようなメンバーの人たちばかりだったので、模範的な回答を、ここに書いてある基本構想に向けて全部やってしまう訳です。だから、今回の事務局が示している案は大変画期的であると思うのです。模範的な解答を得ない、引っ込み思案な人たちも出してもらって、どんな考えがあるかというのは、私はすごく大切なことだと思うのですよね。前回行って、4回行ってなんだったのかなと思っているのはですね、例えば助詞の違いを議論するとか、無意味なことだったのですよね。お金ももらって申し訳なかったので、新しく町のことを考えるという事務局の提案はとてもすばらしいと思うのです。ただ、区長さんもおっしゃるように、やはりそのなかで、全部は抽出したものばかりだと、意見を持っているか持っていないかなんて分からないわけですね。ですから、特にこのファシリテーターの人の技量もいるのですが、今回このような新しい形で住民委員会をするということには意義があることだと思うのです。ですから、審議委員の皆さんでいろいろな意見があると思うのですが、両方踏まえた形で、新しい形で今回はやったほうが、最初からいつもいつも何でも計画案というのは、業者がいて、それに向かってみんなと同じような方向性に向かって、例えば人口を増やすためにはというような、それだけの目標のために同じような意見、紋切り型ばかりなのですね。今回の有田町は本気でこの計画書を作ろうという思いがあって、木寺さんが新しい企画でやりたいというのは、私は大いに評価できるかなと思っています。

山口（睦）：皆さんがおっしゃるように、100人集めるのはすごく難しいと思うのですが、人口に対してこれくらい集めないといけないとかいったものがあるのですか。

岩崎：今まで実績がありますか。初めてですか。これではないですよ。初めてですよ。

山口（睦）：少し心配でもう少し減らしてもいいんじゃないかなと思っているだけです。今泉委員がおっしゃるように、アンケートのサンプル数が少ないのが気になりますね。全体のスケジュールが詰まっているのがよく分かるのですが、これに引っ張られてしまうというのがすごく怖いという気がするのです。もしくは、100人集め

て人に回答をしてもらおうとかですね。これだけだと非常に偏っているのじゃないかなという懸念があります。

岩崎：アンケートの回答率が低いから、ワールドカフェの参加も少ないのではと、そこに繋がっているかも知れませんね。

王寺：両方でやればいいんです。抽出するばかりじゃなくて。

川内：最低半分は集まるようにしていればね。

久家：いろんな方法があったほうがいろんなかたが集まりますよね。

岩崎：集落から何名か、区長さんから推薦したらそれでいいんじゃないですか。私も公募したのですが、集落のなかにもいると思うのですよね。

久家：それぞれの年代にあう広報の方法というものもあると思いますので。

川内：本気でやったら半日くらいかけて、半日でも足りないかも知れないね。そういう人の意見を聞くのはね。

岩谷：盛り上がると時間を忘れますからね。このワールドカフェって。

久家：ワールドカフェは3，4時間かけて行うものなので。

岩崎：審議会は答えを出す場ではなくて、わあわあ言っていくという形ですから、住民委員会も次は1月に開くときにはだいたい答えが出ているとですね。4回のうち3回やっているわけですよね。

徳永：駅前開発の審議会がありました、有工生も30～50人くらい来てましたよね。

久家：青年会議所で森本CIOを呼んだもので、青年会議所主催でやらせてもらったものです。

徳永：駅前にビルを建てて九陶とつないではとか、いろいろ意見がありましたが、その後のどういう具合の進行になっているかなと思っていたら、いつの間にかセブンイレブンができてしまって、ある人に民間なら民間に誘致するなりしてはどうだろうかと話をしていたのですが、庁舎の検討委員会と時でしたが。そのときに言われたのが、ちゃんとマスタープランを作ってやっていかないといけないよと。駅中心に計画を立てないといけないとか。私も有田駅の乗降客を調べたのですが、だいたい調べましたら、1年間に119万8千人ですね。だいたい有工生も東は神埼、北は唐津から来ているのです。松浦や佐世保からも来ています。クラブ活動をして休憩するところも無いと、まつばやさんのベンチに座って遠慮して食べているわけですよね。そういう若い人たちがこれのような道の駅を広場に作って産物を売って、その一角にそういうファーストフードコーナーを作ったりして、若い人に夢をもたれるような、神埼から来ても定着していようかと、PRして呼び込むとか、窯大でも小笠原とか北海度とかから来てましたもんね。そういう人たちを、身近な人もですが、こういう学校でせっかく来た人、この人たちがPRにもなりますし、有田に定着しようということにもなりますので、そういうふうに希望を持てる環境づくりを考えていただきたいと思っております。

岩崎：町長の挨拶にありましたが、ハード面ソフト面は道筋が示されたと。2，3年後には実現するとのことでしたね。

久家：最後にまとまった後はこういう冊子だけなのですか。ネットで配信とか、誰でも見られるような方法とかありますか。

木寺：今想定しているのは、こういった形できっちりした冊子にまでする必要はないかなど、できれば簡易な冊子や本での取りまとめ方でもいいのかなというふうに思っております。できるだけ、わかりやすい計画で、多くの人に手にとって見てもらえるような。計画の説明にならないといけないかなと意識しておりますので、こういったきっちりした形で製本するかどうかは今のところは未定です。

久家：製本されているよりもネットに常にあるいつでも見られる状態のほうが、いろいろなところで見ただけたりとか、I p a dとかで話をするときに見たりできるので、できたらネットのなかにあるとありがたいなと思います。

木寺：今日の会議に始まりまして、住民委員会の活動から、今日からのこの総合計画の策定に係る作業はすべてホームページのほうで掲載をしていきたいと考えています。そこで、話した内容を含めて公開させていただきたいと思います。

岩永（喜）：これ（現計画書）はあんまり上等すぎるのじゃなか。

岩崎：今日は皆様方貴重な意見を出していただき、事務局のほうで策定にむけて進めていただけるものと思います。1回目ということで、顔合わせの段階でもありましたが、次のスケジュールみますと1月ですね。この時期には他のスケジュールも動いているようですので、また、違った意味で意見交換ができるのかなと思っています。それでは終わりたいと思います。